

EWA 社 Blackhawk BH560p TI 社 Code Composer Studio 用ドライバ インストールガイド

第 5 版 2010.7



ROINOS

複製禁止

株式会社 ロイノス DSP 開発ツール

Tel 053-762-3681 Fax 053-762-3682

URL : www.roinos.com Email : tool@roinos.com

目次

1. まえがき	1	7.3 Blackhawk560P の認識.....	8
2. システム要件	1	8. CCS セットアップに関する役立つ知識.....	9
3. 取り扱い上の注意事項と保証期間	1	8.1 GEL の利用 (CCS Ver3.x 対応のため)	9
4. 梱包内容	2	8.2 DSK、eZdsp 用のパッチ	9
5. Code Composer Studio インストール.....	3	8.3 マルチコアプロセッサについて	9
5.1 CCS Ver4 の場合	3	8.4 マルチプロセッシング	9
5.2 CCS Ver3.3 の場合	4	9. Setup CCS の設定.....	10
6. デバイスドライバのインストール.....	5	9.1 CCS Ver3.3 の例.....	10
6.1 CCS Ver4 の場合	5	9.2 CCS Setup の import で設定をする方法 (Ver3.3 の例).....	11
6.2 CCS Ver3.x の場合	6	10. 汎用的ボードの具体的設定(CCS3.3 の例)....	12
6.3 ロイノス編集 CD の場合.....	7	10.1 DSK C6713 の場合	12
6.4 アンインストール.....	7	10.2 DSK C6416 の場合	12
7. Blackhawk560P のインストール.....	8	10.3 EVM DM642 の場合.....	12
7.1 JTAG アダプタの準備	8	10.4 EVM 6201 / 6701 の場合	13
7.2 機器の準備	8		

10.5 DSK C5416 の場合	13
10.6 DSK C5510 の場合	13
10.7 SR-MK2 の場合	14
10.8 eZdsp F2812 の場合	14
10.9 eZdsp LF2407 の場合	14
10.10 eZdspF28335 の場合	15
10.11 OMAP5912 OSK の場合	15
10.12 EVM DM6437 の場合	16
10.13 DSK C6455 の場合	17
10.14 EVM DM6446 の場合	17
10.15 C672x の場合(EVM 6727 の例)	18
10.16 EVM DM355 の場合	18
10.17 OMAP3530 の場合	19
11. CCS Ver4 の場合の設定方法	20
11.1 CCS のインストール	20
11.2 デバイスドライバについて	20
11.3 Blackhawk の準備と認識	20
11.4 Target Configuration	20
11.5 接続について	21
12. 補足説明	22
12.1 エミュレータのリセット	22
13. 故障対応	23

1. まえがき

EWA 社エミュレーションシステムとテキサス・インスツルメンツ社 Code Composer Studio を組み合わせて使用することで実機のエミュレーションを行うことができます。テキサス・インスツルメンツ社の TMS320 ファミリーをサポートしています。

システムの特徴は次の通りです。

- ▲ C6000,C5000,C2000,OMAP,DaVinci,ARM のエミュレーション。
- ▲ PCIU ポートでの使用
- ▲ 1V から 5V までのターゲット I/O 電圧に自動対応
- ▲ 最適な JTAG クロック周波数の自動選択

本書では Code Composer Studio を CCS、テキサス・インスツルメンツ社を TI と称する場合があります。

2. システム要件

本書は、EWA 社のエミュレータ Blackhawk560P と TI の CCS、JTAG 接続の DSP ターゲットボードを使用する方を主な対象としています。ホストパソコンに必要な条件は次の通りです。

- ▲ CCS Ver3.1 以降、Ver4 含む
- ▲ Windows 7/ Vista / xp / 2000 / 98 / Me
- ▲ PCI バス 1 個

3. 取り扱い上の注意事項と保証期間

製品は、実用性を踏まえつつ設計されておりますが、機構上長期間に渡る機械的負荷で損傷を受ける個所がございます。製品を長期にわたって安心してお使いいただけますよう、製品には**機械的衝撃を与えない、ケーブル部に機械的応力(張力、荷重、ねじれ力)をかけない**ようお願いいたします。

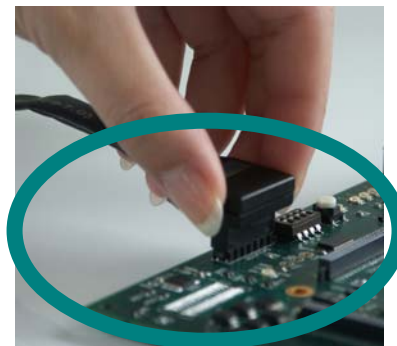
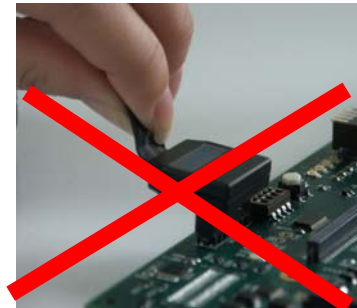
ターゲットの電源とホスト PC の電源はできるだけ近くからとり、フレームグラウンドの電位差が発生しないようにして下さい。電位差がある状態で JTAG の端子を挿抜しますと、機器が破壊されるおそれがあります。また、大電流を扱う機器、力率の悪い機器と AC を共用する環境では、フレームグラウンドの電位差による**循環電流を流さない**ようにホストパソコンとターゲットボードのグラウンドは **POD とは別に導線で常時接続**することをお勧めします。

また、製品の保証期間は一年間で、その期間内に正常な使用状況において故障した場合には修理は無償です。その期間を過ぎた場合には有償の修理となります。

ロイノスでは 1 年を超えた後でも、有料にて年間サポートを承っております。詳しくは弊社の web をご覧頂く

か、あるいは営業までお問い合わせ下さい。

製品の構造上、JTAG コネクタの部分は強度が割と弱く、コネクタの挿抜の際にケーブルを引っ張るとコネクタ内部で接触不良が起き、CCS の動作が不安定となります。**かならず JTAG コネクタのシールドをつまみはせず**ようにしてください。



(写真は Blackhawk560P ではございません)